事業の名称

町の職員・町民・学生が共に学ぶ「市民協働の町大洗」実現に向けた地域人材育成事業

〔事業責任者〕

（自治体等側）
大洗町役場・まちづくり推進課課長　中村　勇一

（大学側）
人文学部・教授　伊藤　哲司

事業テーマ：地域の教育力向上
自治体との連携
学術文化の推進

連携先

大洗町役場

プロジェクト参加者

伊藤哲司（人文学部・教授・事業遂行／全体統括）

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

本事業は，大洗町が目指す「自立と協働のまちづくり」の達成に寄与することが目的である。大洗町には3年後ぐらいを目処に『大洗町・町民まちづくり大学』（仮称）をつくる構想があり，それを睨んだ実績を積み重ねていくのが本プロジェクトである。具体的には，「協働」をテーマに町役場職員研修を3回実施した。それらを通して，町民だれもが当時者意識をもって「まちづくり」に関われるようにするために，「協働のまちづくり」を担う町役場職員と町民，さらに学生がともに学べる場を大洗町役場と茨城大学が協力してつくり上げていくことを目指した。

②連携の方法及び具体的な活動計画

「町役場職員としての協働にかかるスキルアップ」「協働の町を指させる町民のスキルアップ」「地域貢献に寄与する学生の育成」の要件を満たす3回の研修（シンポジウムを含む）を計画した。1回目は町役場職員のみ，2回目は町役場職員と町民，3回目は町役場職員・町民・学生が参加する場を設定した。基本的には町役場職員研修であるため，町役場には全面的に協力をいただき，日時の設定から場所の確保，参加する町役場職員への働きかけを行ってもらった。また必要な小道具（模造紙やマジックペン）なども町役場に用意してもらった。3回目には，後述の通り石川県珠洲市から3人の方を招聘したが，3人が大洗町に滞在中の町視察については，町役場が全面的に担当してもらった。

③期待される成果

これまでも大洗町では，茨城大学は人文学部を中心にさまざまな研究教育活動を展開してきたが，より発展的にエリアキャンパス化（広く地域をキャンパスと捉えて教育研究活動を行うこと）に向けた活動を展開していくことが期待される。それは，学生にとっても協働を実践的に学ぶ場となる。町の職員・町民・学生が共に学ぶ場ができることに，この事業の新しさがある。

プロジェクトの実施成果

①活動実績

2015年

7月13日（月）第1回町役場職員研修実施

11月30日（月）第2回町役場職員研修実施

2016年

2月15日（月）第3回町役場職員研修（シンポジウム：茨城で能登の先進事例に学ぶ）

第1回は，町役場職員約20名が参加し，小グ

ループを形成し，「『幸せづくり会社』としての町役場ができるプロジェクトを，自由な発想でつくってみる」という課題に取り組み発表してもらった。

第２回は，町役場職員約 15 名に町民（町づくり推進委員）約 10 名が加わり，やはり小グループをつくり，町役場と町民の協働の具体的なかたちを構想してもらい発表してもらった。

第３回は，大学と地域の先進的な協働を進める「金沢大学能登学舎」のメンバーを大洗町に招き，豊かな里山里海を活用した人材育成の取り組みが紹介されたあと，大洗町役場職員・町民・学生約 30 人が小グループをつくり，大洗町の廃校活用を念頭に置いたプロジェクト案づくりを行い発表してもらった（別紙参照）。なお，とくにこの第３回では社会連携センターの長谷川幸介先生にもシンポジウムの司会を務めてもらうなど，本プロジェクトに協力をいただいた。

②プロジェクトの達成状況

３回の積み重ねのなかで，徐々に情報量も増え，発想も豊かになっていった。第３回では，廃校活用のプロジェクトとして「大洗魅力研究所」「多世代交流型シェアオフィス」「海図書館」といった斬新なアイディアが出されるに至った。もちろんその実現までにはまだ距離があるが，大洗町に実際にある廃校の跡地活用の具体的なプランづくりに活かしていきたいとのことである。

もともと町役場職員・町民・学生がともに学ぶ場づくりを目指し，それはある程度達成できたと言える。ただし，第３回の職員研修に参加した学生は３人に留まった。事前の広報不足もあったが，そこまで興味のある学生を掘り起こすことができなかったというのが率直なところである。町民の参加も，町づくり推進委員にほぼ留まっており，一般の町民がこの機会に参加してきたというわけではなかった。このあたりの参加者の拡充がひとつの課題である。

③今後の計画と課題

すでに述べたように，このプロジェクトの意義を理解した参加者（町役場職員・町民・学生）にどう参加してもらえるようにするか，今後さらに工夫が必要である。またここで学び出されたアイディア等が，机上の空論で終わってしまったのでは，構想されている『大洗町・町民まちづくり大学』（仮称）には近づいていかないだろう。出されたものが，いくらかでも施政に反映されていくような仕組みが必要である。

このプロジェクトを当初つくったときには，大洗町の予算的な負担を盛り込むことが，準備の時間不足でできなかった。今年度このような実績を積むことができたことで，次年度には，大洗町も相応の負担ができる見込みである。実際には，第３回の企画の際に，町視察のバスを出し案内もしてくれるなどの負担を負ってもらっている。

なお伊藤は，人文学部市民共創教育研究センターのなかで大洗町担当の主任を務めているのだが，他の大洗担当の教員たちの協力を得ることが，今年度についてはできなかった。プロジェクトの幅が広がっていくにつれて，より安定して充実した実施体制をつくるために複数の教員の参加も望まれる。来年度に向けてそのような話しあいを始めており，大学側の体制も，よりしっかりしたものにしていきたいと考えている。

第３回町役場研修の様子
（写真中央は長谷川幸介先生）

平成 27 年度戦略的地域連携プロジェクト（茨城大学）

大洗で能登の先進事例から学ぶ

行政・町民・学生共同の学びの場へ

2015 年 11 月の研修の様子（大洗町役場）

小路晋作氏

田畑行輝氏

北風八紘氏

石川県珠洲市で金沢大学能登学舎に関わっている 3 人の方々を大洗町にお招きします。大学と地域の興味深い協働の取り組みを知り、「協働のまちづくり」実践への契機としましょう。ぜひ、ご参加ください。

日時：2016 年 2 月 15 日（月）14:00～17:00
場所：オーシャンビュー大洗（茨城県東茨城郡大洗町東光台 8234-1）
対象：大洗町役場職員、大洗町民、茨城大学学生

プログラム

第１部　パネルディスカッション（14:00～15:20）

金沢大学能登学舎　特任准教授	小路 晋作
能登里山マイスター修了者	田畑 行輝
能登里山里海マイスター支援ネット世話人代表	北風 八紘
コーディネーター　茨城大学地域連携センター准教授	長谷川幸介

第２部　全員参加でワークショップ（15:30～17:30）

ファシリテーター　茨城大学人文学部教授	伊藤 哲司

金沢大学能登学舎

金沢大学が珠洲市の協力を得て旧小泊小学校の校舎を借り受け、2006 年にオープンした研究・教育施設。能登の里山里海の基礎研究や保全活動、都市-農村交流、地域振興のためのリーダーの育成など、地域との連携による様々な教育研究事業を実施。また、地元住民の方々によるコミュニティレストラン「里山里海食堂 へんざいもん」の活動に利用されている。

日本海に隣接する 3 階建ての校舎には、講義室（2 室）、演習・実習室（3 室）、展示室、サロンルーム、厨房、図書館などが整備され、「能登里山里海マイスター」育成プログラムの約 10 名のスタッフが常駐する。

共催　大洗町 × 茨城大学
協力　金沢大学能登学舎
　　能登里山里海マイスターネットワーク
　　能登里山里海マイスター支援ネット